



神功皇后 久保田米僊 画 (長谷川治郎兵衛旧蔵)

長かったコロナ禍の冬がなんとか終わりそうな兆しが見え始めた今、折しも季節は桜の咲く春。本年度もたくさんの展示とイベント、歴史講座などの企画をもって歴史好きな皆さまをお迎えします。あなたも、この開放感と陽気に誘われて、ここ松阪の歴史文化をゆっくりと味わってみませんか？

端午の節句の際に長谷川家で掛けられていたというこの作品は、明治期に活躍した日本画家 久保田米僊じんぐう たけのうちすくねの作。遠征中の神功皇后と武内宿禰、そして産着に包まれた応神天皇の姿を描いている。

今回の展示のみどころ!

旧長谷川治郎兵衛家

長谷川家の暮らしを語る道具展

3月21日(火)~7月2日(日)

旧長谷川治郎兵衛家には昔の生活道具が残されており、その中には、今では全く見られなくなった道具もあります。本企画展では、長谷川家の暮らしの中で使われていた道具をご紹介します。昔の道具を通して、当時の人たちがどのような生活をおくっていたのか感じとっていただければ幸いです。

右ページ⇒の関連イベントもご参照ください!

【学芸員による展示解説】

4/1(土)、6/3(土)の午前11時より20分程度



〔蓄音機〕

レコードの溝を針でなぞり、音を再生する音響機器。

旧小津清左衛門家

紀州徳川家と松阪商人

4月25日(火)~7月23日(日)

元和5年(1619)、徳川家康の十男 頼宣が駿河から和歌山に移封し、勢州三領(松坂・田丸・白子)を含む紀州藩が誕生しました。その当時、すでに松坂城下には裕福な商人が群居しており、紀州藩はその中の有力な商人に様々な責務を負わせました。本企画展では、古文書や道具類などから紀州藩と松阪商人の関わりをご紹介します。

【学芸員による展示解説】

5/13(土)、7/8(土)の午前11時より20分程度



〔紀州藩御用文書箱〕

黒漆塗の地箱に、紀州藩徳川家の定紋である葵紋を朱漆で施した御用文書箱。

原田二郎旧宅

松坂城の軌跡

4月4日(火)~8月13日(日)

松坂城は、天正16年(1588)に蒲生氏郷が独立丘陵のよいほのもり四五百森ひらやましろに築いた平山城です。蒲生家の後は、服部家・古田家・紀州徳川家が城主となり、明治以降は史跡公園として松阪市民に親しまれてきました。本企画展では、古文書や出土品などから、松坂城の軌跡をご紹介します。

【学芸員による展示解説】

4/22(土)、6/24(土)の午前11時より15分程度



〔南龍神社本殿扉〕

南龍神社は、明治17年(1884)、和歌山城下に鎮座する南龍神社の分社として松坂城本丸跡に創建された神社で、現在は御城番屋敷内に鎮座する。

イベントのご案内

お申込みはQRコードもしくは裏ページ記載の
NPO法人松阪歴史文化舎事務所へご連絡ください。

● 旧長谷川治郎兵衛家企画展関連イベント

◆ 旧家で聴く蓄音機の音色～長谷川家のSPレコード～

6月4日(日) 13:30～15:00

クラシックな蓄音機で、
長谷川家に残るレコードを聴いてみませんか。

- ◆ 定員：30名(先着順)
- ◆ 講師：長谷川怜先生(皇學館大学文学部国史学科助教)



無料

はせがわ

※入館料は必要です。



◆ 昔ながらのハタキをつくろう

6月18日(日) 13:30～15:00

手の届かない高いところ、せまい隙間のホコリもひとは
たき！掃除が楽しくなりますよ。

- ◆ 定員：10名(先着順)
- ◆ 講師：中戸弘美(当館学芸員)



● 戦国武将になって

城下町を歩いてみませんか！

はらだ

武士の町・旧同心町の原田二郎旧宅で手作り甲冑を着てみ
ましょう。

甲冑を着て、兜をかぶり、刀を差したら、ほら！あなたはもう武
将、松坂城跡までの道を武士になった気分です。

- ◆日時：5月5日及び5月、6月、9月から11月までの第2、第4日曜日
10:00～15:00 (受付は14:00まで)
- ◆定員：30名(先着順)
- ◆参加費：500円(入館料は別に必要です)



● 災害に関する古文書・

古記録を読んでみよう

おづ



古文書や古記録を通して過去にどのような災害が発生し、
どのように対策したのか？くずし字で書かれた原文を味読し
て、昔の災害を覗いてみませんか？くずし字が読めない方
も大歓迎です！

- ◆日時：5月30日(火)及び6月から9月までの第4火曜日(全5回)
10:00～11:30
- ◆定員：15名(先着順)
- ◆資料代：500円(5回分)



● レンズを通して

長谷川家の魅力を発見しよう！

はせがわ

長谷川家の魅力を写真に残しませんか？
撮影された作品は夏頃に展示を行う予定です！
※カメラ(スマホ・タブレット等)は、各自でご準備ください。

- ◆日時：6月25日(日) 10:00～12:00
- ◆定員：20名(先着順)
- ◆参加費：500円
- ◆対象：小中学生



「松阪歴史文化舎友の会」が 発足しました！

おしらせ

友の会は、NPO法人の経営への参画までは望まないけれ
ども、講座等の案内や講座受講料の割引などの特典を受け
たい、歴史好きな仲間と知り合いになりたいという方にお薦
めの会です。

入会は入会金(初回のみ)と年会費を添えて入会申込みを
事務局に出していただければ、1年間会員になれます。詳
しくは、事務局までお問い合わせください。

	友の会会員
入会金	500円 ※NPO法人正会員から 移行される場合は免除
年会費	1,000円 入会日から1年間分



● 綿を育ててみよう！

はせがわ

おづ

はらだ

旧長谷川治郎兵衛家の庭で育てた綿の種を来館者のみ
なさまに配布いたします。秋にはかわいいコットンボールが
開きます。

・配布期間 令和5年4月1日(土)～
※なくなり次第終了します



江戸ほんわか見てある記

その2 大伝馬町いまむかし



とうと おおでんまがいはんえいのず

「東都大伝馬街繁栄之図」(歌川広重筆)は、木綿問屋が軒を連ねる大伝馬町一丁目界限(現日本橋本町)の繁栄を描いた錦絵です。中央の日光奥州街道沿い(現大伝馬本町通り)向かって左側に、松阪の丹波屋(長谷川次郎兵衛)・大和屋(長井九郎左衛門)、津の川喜田屋、松阪の戎屋(長谷川六郎次)・亀屋(長谷川武右衛門)、右側に松阪の長谷川新店・長谷川向店、その奥に松阪の伊勢屋(小津清左衛門)・小津屋(同)など、多くの伊勢商人の店が並びます。

大伝馬町は、慶長11年(1606)、江戸城拡充のために宝田村(大手町付近)から住民共々移転した町で、伝馬役を拜命していた村長馬込勘解由が住んだのが名前の由来となったとされます。それから400年の時を経て大伝馬町はビル群となりましたが、朝の静寂の中、宝田恵比寿神社や「於竹大日如来井戸跡」がひっそりとたたずむ様子は、遙かな時間の流れを感じさせます。

宝田恵比寿神社は、元は宝田村の鎮守でしたが、移転の際にこの地に移されました。商売繁盛などにご利益があるとされ、毎年10月19日に「べったら市」、20日

に恵比寿神祭が盛大に執り行われています。

「於竹大日如来井戸跡」は、名主で紙商の佐久間善八家の屋敷(現小津本館ビル敷地)にあった井戸で、寛永年間(1624~1644)に、この佐久間家の下女として働いていたお竹が使ったと伝えられています。お竹は信仰心が篤く困窮者救済などの善行により、周囲から大日如来の化身として後々までも慕われました。

松阪の紙問屋・小津清左衛門家創業者の長弘も佐久間家に奉公していましたが、承応2年(1653)、佐久間家隣の井上仁左衛門の紙店を購入して創業、元禄17年(1704)と宝永3年(1706)、佐久間家の土地を譲り受けて店を広げました。現在も創業の地で営業を続ける和紙専門店「小津和紙」は、大勢の客で賑わっています。また、旧マルサンビル(長谷川家新店、向店あたり)の1階に、かつての隆盛を取り戻したいというオーナーたちの想いの元、令和2年(2020)、「COMMISSARY 日本橋」がオープンし、休日には多くの若者たちが食事を楽しんでいます。(中戸)



【「東都大伝馬街繁栄之図」(歌川広重筆)】



【現在の同地点付近】

歴史文化3施設のご案内

【開館時間】9:00~17:00

(16:30までにご入館ください)

【休館】水曜日(祝日の場合は翌平日)

／年末・年始

【連絡先】

◆旧長谷川治郎兵衛家

Phone: 0598-21-8600

◆旧小津清左衛門家

Phone: 0598-21-4331

◆原田二郎旧宅

Phone: 0598-23-1656



発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 松阪市魚町1653

Phone: 0598-21-8600 (事務所)

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

HP https://matsusaka-rekibun.com/

